

サーキット・ライダー2005年6月号

父の日

子供たち、主に結ばれている者として両親に従いなさい。それは正しいことです。

「父と母を敬いなさい。」これは約束を伴う最初の掟です。「そうすれば、あなたは幸福になり、地上で長く生きることができる」という約束です。父親たち、子供を怒らせてはなりません。主がしつけ諭されるように、育てなさい。

エフェソの信徒への手紙 6：1－4。

6月も後半になってしまいました。皆様如何お過ごしでしょうか。私事ですが去る6月11日（土）にパークトリッチ合同メソジスト教会のメモリアル・ガーデンで坂口泉姉と結婚式を挙げさせていただきました。この場をお借りしご報告いたします。6月としては記録的な猛暑に見舞われた週末でしたが、教会員をはじめ多くの方に御出席頂き、祝福いただきましたこと心よりお礼申し上げます。日本からは新婦のご両親、兄、二人の友人、私の父が式に参列し、実に恵まれた時をもたせていただきましたことも報告させていただきます。

6月と言えば、June Bride（6月の花嫁）というように結婚式のシーズンとされていますが、6月の第三日曜日は「父の日」とされ、父に感謝を捧げ、ささやかな（最近では豪華になりつつある）プレゼントをしたりします。この日はあちこちの教会で野外礼拝をしたり、ピクニックをしたりします。元来、父とは威厳に満ちた存在で改めて感謝を捧げるという感じでもなかったのですが、5月に「母の日」が制定されてから1世紀過ぎ、「父の日」もそれに合わせるようにクローズ・アップされるようになりました。日本では「父の日」はまだあまりお祝いされていないようですが、嘗ての「厳格で頼もしい父、日本のお父さん」のイメージが薄らいだ今、改めて「父の日」を祝うのも良いかもしれません。

私の父もある意味では古いタイプで、幼い頃より厳しく、勉強をしないと遊びに行かせてくれない父でした。一方では私の進む道を応援してくれましたが、また一方では結構、辛口の批判を受け続けました。振り返ってみると中学3年の時、美術を学ぶ決心をした時も高校に学ぶ傍ら美術研究所に通うことを認めてくれましたし、アメリカに来る決心をした時も父はニューヨークの知人に頼み、渡米後最初の2ヶ月はその方のオフィスに寝泊りをさせていただきました。その後、美大を卒業し、神学校に進む時も、牧師になる時も私の歩みを認め応援してくれましたが、いつもより向上すること、結果を出すことを求められました。次の表現は古い言い回しですし、女性差別的なニュアンスがあり誤解されても困りますが、敢えて言うなら「早く、男になれ。一人前になれ。」と発破を掛けられ続けました。そのお蔭で、牧師になった今もコロンビア大学教育学博士課程に籍を置けているのかもしれませんが・・・。

そんな父が今回の結婚では私の家族からは唯一参加してくれました。5月に58年ぶりに生まれ故郷の中国の旧満州、大連を訪問して帰ってきたばかりの父は、アメリカに来る前かなり疲労していたようで、今回いつになく元気がありませんでした。が、式の当日になるとアメリカ人の教会員、日本人の教会員に精一杯愛想良く応対し、感謝を表してくれました。喜んで父の姿を見ることができ、私もようやく親孝行が出来たかな、と思いました。式の翌週、一週間の滞在を終えて帰国する父を空港に送って行きました。空港でチック・インを済ませ、東の間の語らいも終わり、搭乗する時刻となりました。さてセキュリティー・チェックを受け、いざ「去らば」という別れ際、父が手を差し出して握手を求めてきました。私たち日本人はアメリカ人と違い、親子、友人でもあまり握手をする習慣がありません。お辞儀をするのが私たちの習いだからです。私の記憶でも父が私に握手を求めてきたことはかつて無かったように思います。ですから私は一瞬驚きましたが素直に手を出し、父を別れの握手を交わしました。これまで諸々の社会活動、在日韓国人政治犯救援運動また牧会であちこちを訪問していた父にとっては握手はさして特別なことではなかったかもしれません。また平常アメリカ人と付き合っている私も、握手そのものは当たり前の行為です。しかし、父から握手を求められた事実は何だか「ようやく父の期待に応えることができた」という喜びを与えてくれました。同じように私たち一人一人はイエスが「父」と呼んだ神に期待されています。私たちはその期待に応えるべく日々努力しなければなりません。信仰の歩みは決して楽なことばかりではありません。しかし神が下さる喜びは想像以上です。父との握手を通して私はそのことを確信しました。皆さんもいつの日か父なる神と交わす握手、その喜びを信じて歩んで下さい。 吉松 純

*礼拝：午後4時。Jr.教会（教会学校）：午後4時時、礼拝に出席後、分級に進みます。

*祈りたい方の為に礼拝堂を午後3時30分より開放しています。どうぞご利用ください。

*聖日予定：

6月 5日：自由祈禱会、Jr.教会：畑作業、聖餐式礼拝。

12日：自由祈禱会、Jr.教会：ユーズミー色遊び、礼拝、説教：吉松 繁牧師

19日：父の日合同礼拝（英語）、午前10時より。礼拝後持ち寄り昼食会。日本語礼拝は休み。

26日：自由祈禱会、Jr.教会：クロージング BBQ、礼拝。

7月 3日：自由祈禱会、聖餐式礼拝。

*集会、行事予定と報告

*6月2、3、4日合同メソジスト教会年次総会。吉松牧師が出席され、教会のあり方、使命、伝道、諸々の課題について話し合いました。

*6月18日（土）午後1時30分より、ニューヨーク・ヒルトン・ホテルにて日野原重明医学博士講演会。

*6月23日（木）午後2時より、Fort Lee, Bethany UMCにてティータイム・フェローシップ。箴言より親子教育を学びます。Bethany UMCはメイン・ストリートに面しパリジェンヌより2ブロック西にあります。どうぞお誘い併せの上お出かけ下さい。

*6月24日（金）、午前10時30分より、牧師館にて聖書の学びがあります。箴言とコヘレトの言葉（伝道の書）から学びます。どうぞご参加下さい。

*6月24、25、26日ビリーグラハム博士のクルセード。日本人の為の特別通訳は25日土曜日に設けられています。参加希望の方は折込のパンフレットをご覧ください。参加自由。費用は必要ありません。

*おめでとうございます。

*6月11日（土）、坂口泉姉と吉松 純牧師がご結婚されました。お二人の新生活に主の豊かな祝福がありますように。

*御協力お願い致します。

*引き続きインドネシア沖地震と津波の被害国への救援献金をしています。ご協力お願いします。

*ハーベスト・タイム放映の為、献金、お祈りのご協力をお願いいたします。

*使用済み切手を集めています。ご協力下さい。消印のついた切手の周り1センチくらいの余白を残して切とって下さい。切手は日本キリスト教海外医療協力会（JOC S）に送ります。JOC Sは切手を換金し得られた収益金で海外に医療関係者を送ると共に医療関係者の育成をしています。

*Electrophysiology という特有の心臓病を患う子供の救援団体HOPE（The Heart of Pediatric Electrophysiology）にもご協力下さい。

*一昨年よりケニヤの恵まれない子供達やエイズ患者さん為に特別献金をしています。ご協力下さい。

*パターソンのSt. Philip 伝道と社会福祉団体CUMAC/ECHOの為に。どちらもメソジスト教団に属し、貧しい人達の為の炊き出しと路傍伝道をしています。

*これらの献金のあて先はUMC-JAとし、寄付のあて先をNoteに記してください。

連絡先：英語オフィス（201）391-5499 日本語及びファックス（201）505-0347

ホームページ：<http://umc-japan.org> 吉松牧師宅（201）391-2208 pastor@umc-japan.org

教会学校担当：松尾タカエ姉（201）802-1769 takae17A@AOL.com